

史上最高値更新で先高観強まる米国株を考える

チーフ・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 主要米株価指数が最高値を更新

15日の米国株式市場では、S&P500が今年1月27日につけた最高値を更新しました。テック株主体のNASDAQ-100も昨年10月の最高値を更新するなど、米国株の先高観が一段と高まっています。背景には、米国とイランの停戦交渉進展への期待に加え、これから本格化する米企業の決算発表への前向きな見方が市場心理を支えている点があります。

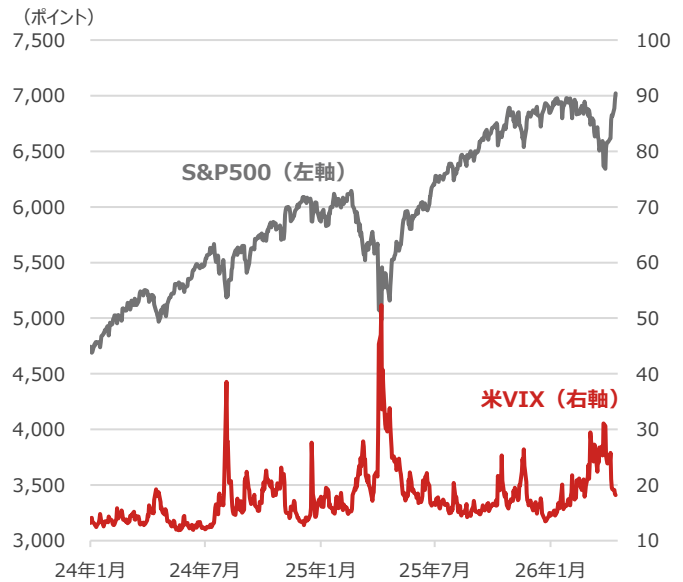
足元では、中東情勢の緊張緩和に向けた動きが意識され、投資家の不安心理を示す米VIXは一時期と比べ低下してきました。こうした市場心理の改善を受け、株価は安値から切り返しの動きを強める形となり、過度なリスク回避姿勢の後退が株価の上昇基調回帰を後押ししているといえます（右上図）。

ポイント② 業績面でみて米国株の上値余地大？

また、中東情勢の落ち着きは原油価格の上昇圧力を和らげる要因となり、インフレ再加速や金融引き締めへの懸念も後退しつつあります。これにより、金利上昇とそれに伴うバリュエーション調整への市場の警戒感が和らぐ中、企業業績に対する評価が改めて高まりやすい環境が整ってきたといえます。

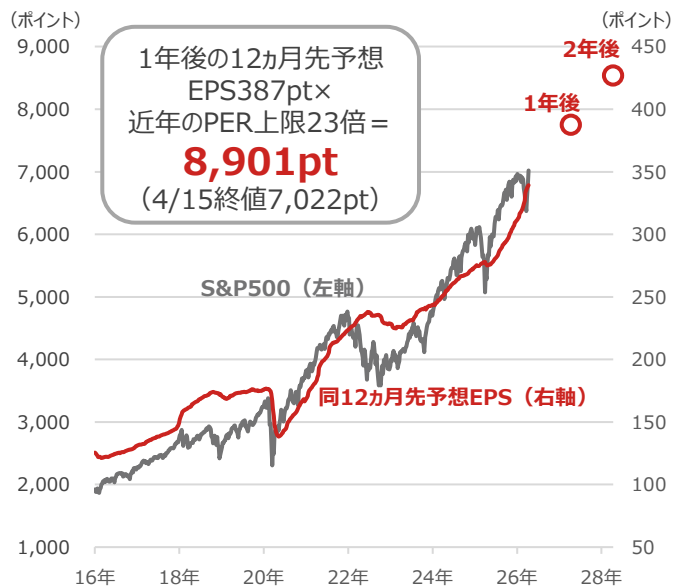
今後本格化する米企業の決算発表では、特にテック株を中心に良好な業績が確認される可能性が高いとみています。市場ではテック企業がけん引する形で米企業の業績拡大が当面続くとの見方が強く、こうした利益成長期待が株価の押し上げ要因として意識されています（右下図）。仮に利益成長が継続し、バリュエーションが近年の上限水準である23倍程度まで回復すれば、S&P500は8,900ポイント前後といった上値余地も意識されます。業績拡大を軸とした株価の上昇基調は当面続くとみています。

S&P500と米VIX（ボラティリティ・インデックス）



・期間：2024年1月2日～2026年4月15日、日次
・米VIXとは米シカゴ・オプション取引所が、S&P500を対象とするオプション取引の変動率を元に算出、公表している指数。一般的に同指数の数値が高いほど、投資家の先行き不透明感が強いとされる（別名：恐怖指数）
（出所）Bloombergデータを基に野村アセットマネジメント作成

S&P500と同12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）



期間：2016年1月8日～2026年4月15日、週次
・印は1年後、2年後の12ヵ月先予想EPS（2026年4月15日時点のBloomberg予想）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

野村アセットマネジメントからのお知らせ

■ ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2026年4月現在

ご購入時手数料 《上限3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。 投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限2.222%（税込み）》	投資家はその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 * 一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 * ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

当資料で使用した指数について

●「S&P500種株価指数」はスタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標です。